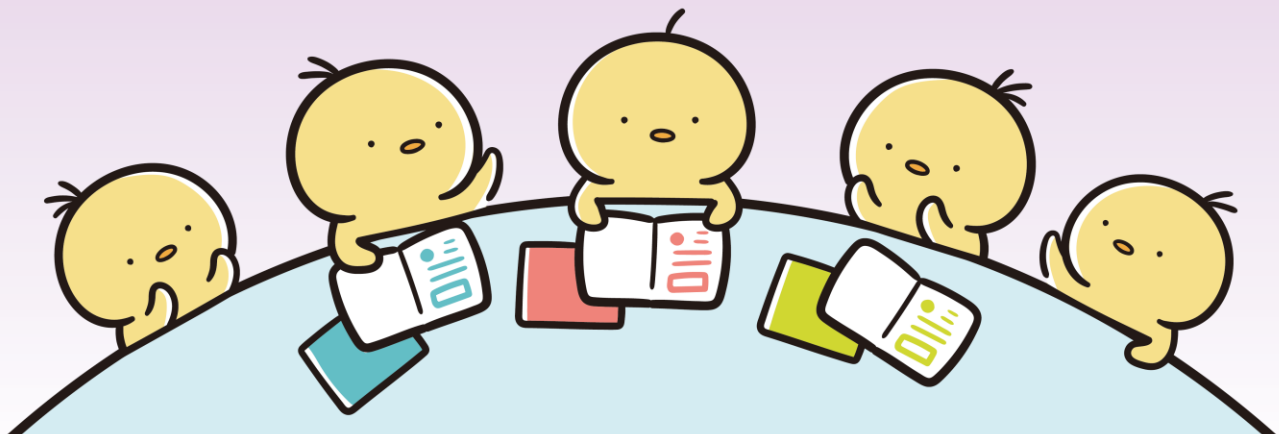


# 第48回 日本産婦人科医会 性教育指導セミナー全国大会



## 今こそ学ぼう包括的性教育 ～宮崎からのメッセージ～



開催日

2026年 8月 2日(日)

会場

宮崎観光ホテル

主催

公益社団法人  
日本産婦人科医会

担当

宮崎県産婦人科医会

大会長

川越 靖之

参加  
無料

関連行事

県民公開講座

「みんなで考えよう  
～包括的性教育」

開催日

2026年 8月 1日(土)

会場

宮崎観光ホテル

## 日本産婦人科医会会長挨拶



### 第48回性教育指導セミナー全国大会宮崎の開催にあたって

公益社団法人日本産婦人科医会 会長 石渡 勇

第48回性教育指導セミナー全国大会を、宮崎県産婦人科医会に担当していただきました。「今こそ学ぼう包括的性教育～宮崎からのメッセージ～」をテーマに開催されます。メインテーマに沿った講演・パネルディスカッションが行われます。素晴らしい企画と運営に、あらためて宮崎県産婦人科医会川越靖之会長はじめ会員の先生方、関係各位に感謝申し上げます。

日本産婦人科医会（以下、本会）は毎年、「性教育指導セミナー全国大会」を開催し啓発活動をしてきました。今年で48回を迎えます。

性教育における国際的な変化を見てみましょう。1990年代、国際社会では、「性教育」はSex EducationからSexuality Education（包括的性教育）へと変化しました。包括的性教育の三本柱が、「多様性、人権、ジェンダー」であります。『国際セクシュアリティ教育ガイダンス（改訂版）』（2018年、訳2020年、以下『ガイダンス』）は、ユネスコ・ユニセフ・WHO・国連女性機関・国連人口基金・国連合同エイズ計画が協働して作成した性教育の国際的スタンダードです。「性」を身体的特徴や生理学的側面に限定して考えるのではなく、個人の尊厳や他者との関係性を含み、文化的・社会的文脈から理解すべきであるとの価値転換がはかられたのです。セクシュアリティは人生の全段階に及びますが、すべての子どもたちに等しく学ぶ機会を保障するには学校における包括的性教育の実施が不可欠です。しかしながら、私たちの考えている性教育と学習指導要領や教科書検定で示された内容には乖離があります。

学習指導要領だけでは、誰もが性被害を受け妊娠の当事者になり得るのに、必要な知識を十分に教わっているとは言えません。一方で、今はSNSの時代、ネットで性情報が簡単に、瞬時に、そして際限なく手に入ります。過激な性暴力的な漫画も氾濫しています。1993年頃から携帯電話が普及し、今では若者もスマホを各自もっています。若者が誤った情報に翻弄されるようになりました。ネット上にあふれる性的情報の真偽を見極め、取捨選択する知識を身につけなければ、子どもたちは翻弄され、打ちのめされる。犯罪に巻き込まれることすらあります。情報氾濫社会に対する情報リテラシーを得るための教育も必要です。

本会が性教育指導セミナー全国大会を開始したのは1978年東京でした。その後、性教育のメインテーマもその時代を反映し、時代を担う子供たちに相応しい内容と子どもたちの見守りや指導方法を模索し、提供してまいりました。さらに、最近では国際的社会的情勢に呼応するように取り組まれ、そのテーマは第43回沖縄（脳科学が解き明かす愛と性と生～青春の生き方を理解し、見守り・育てる～）、第44回山形（つながる力”を高める性教育～自立とは依存先を増やすこと）、第45回静岡（多様性に寄り添う性教育、第46回奈良（どうするネット社会の性教育～SNSの功罪を考える）、第47回埼玉（未来を拓く性教育：DXによる性教育イノベーション）でした。

お影様で、学校教育関係者や、保健師・助産師・看護師の方々等の参加者も年々増加し、会員はもとより各界各方面の方々にとっても、重要な研修の場となっています。多くの会員や性教育に携わる関係者とのコラボにより、青少年の健全育成に少なからぬ貢献を果たしてまいりました。今後も多くの貢献をしていくものと思います。

本大会の成功を祈念しています。

# 第48回日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会大会長挨拶



## 今こそ学ぼう 包括的性教育

### ～宮崎からのメッセージ～開催にあたって

第48回性教育指導セミナー全国大会 大会長  
宮崎県産婦人科医会 会長

川越 靖之

第48回性教育指導セミナー全国大会を、この宮崎の地で開催できますことを心より光栄に存じます。本セミナーは、日本産婦人科医会の長い歴史の中で重要な役割を担ってきました。この伝統ある大会を、豊かな自然に恵まれた宮崎で初めて開催できますことを大変うれしく思います。

現代の日本では、性に関する情報が家庭や学校で十分に伝えられず、インターネット上の不確かな情報に頼る若者が増えています。また、宮崎県では長年にわたり人工妊娠中絶率が全国平均を大きく上回るという厳しい現実があります。しかし、これは私たち大人が性の健康やライフプランについて、子どもたちに適切な情報を十分に提供できていないことの表れとも考えます。正しい知識を若い世代へ伝え広げていくことは、日々臨床に携わる私たち医療関係者の責任であり、使命でもあります。

この状況を改善するためには、国際的なスタンダードである「包括的性教育」の普及が不可欠と考えます。子どもたちが幼少期から成長段階に応じて、正しい知識を身につけ、自らの健康と人権を守る力を育み、将来にわたって主体的に生きる力を養うことができる環境の実現が必要です。そこで本大会では、性の健康、人権、多様性といった多角的な視点から包括的性教育を深く掘り下げ、その理解を深める機会としたいと考えております。また、地元の県民の皆様、高校生、大学生の皆様にもご参加いただき、ともに学ぶことで、2026年が宮崎県における「包括的性教育元年」となることを願っております。

宮崎県では子宮頸がんの罹患率が高く、宮崎県産婦人科医会を中心に、2023年以降、HPVワクチンに関する中学校での説明会をはじめとした普及活動に積極的に取り組んでまいりました。その結果、2024年度にはHPVワクチン定期接種率全国第1位という大きな成果を収めました。また、この活動の中で、医会、関係団体、自治体、教育現場との強固なネットワークを築くことができました。奇しくも宮崎市では、本年度から包括的性教育がモデル校で開始され、来年度からは全ての小・中学校で実施される予定です。今後はこの連携基盤を生かし、宮崎県全体への包括的性教育の普及を推進してまいります。

今回のセミナーが、参加される皆様にとって、明日からの活動に役立つ実践的かつ有益な学びとなるよう、多彩なプログラムを準備いたしました。宮崎の地から、参加される皆様とともに性教育の未来について語り合い、新たな一步を踏み出す大会となることを心より願っております。



## 祝 辞

宮崎県知事 河野 俊嗣

第48回日本産婦人科医会「性教育指導セミナー全国大会」が、ここ宮崎県において盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、「日本のひなた宮崎県」へお越しいただいた皆様を心から歓迎いたします。

皆様におかれましては、日頃から、母子保健及び周産期医療の充実、プレコンセプションケアの普及等に多大な御尽力を賜っており、深く敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

さて、近年、SNSの普及などにより、性を取り巻く環境が変化する中、国において、昨年5月には「プレコンセプションケア推進5か年計画」が策定されました。

性や健康に関する正しい知識の普及や相談支援の充実が掲げられ、具体的にはプレコンセプションケアの普及に係る人材の育成や、身近な地域で相談できる支援体制の整備などを集中的に進めていくこととされております。

本県におきましても、昨年3月に策定しました「宮崎県こども未来応援プラン」において、プレコンセプションケアの推進等を掲げ、関係団体と連携した啓発活動に取り組むとともに、性と健康の相談センター「スマイル」の開設やネット上の相談支援窓口の設置などを行っているところです。

このような中、本大会において、多くの関係者の皆様が一堂に会し、「今こそ学ぼう包括的性教育～宮崎からのメッセージ～」をメインテーマに、講演やセミナー、県民公開講座等が開催されますことは大変意義深いことであります。

本大会の成果が、今後のプレコンセプションケアの充実と発展、さらにはこどもの健やかな成長を見守り育む地域づくりにつながることを大いに期待しております。

結びに、本大会の御成功と、本日御参加の皆様のますますの御健勝、御活躍を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。



## 祝 辞

宮崎市長 清山 知憲

第48回日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会が、全国から多くの関係者の皆様を迎え、ここ宮崎の地において盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

また、日頃から公益社団法人日本産婦人科医会並びに宮崎県産婦人科医会の皆様には、母子保健の向上や地域医療の発展にご尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

さて、今回のメインテーマは「今こそ学ぼう包括的性教育～宮崎からのメッセージ～」と伺っております。インターネットやSNSの急速な普及により、子どもたちが性に関する情報に容易にアクセスできるようになった一方、不正確な情報や偏った価値観にさらされ、性被害や重大なトラブルに巻き込まれる事案が顕在化しております。

本市におきましても、梅毒等の性感染症の報告数が急増し、若年層における人工妊娠中絶率も高い水準で推移するなど、子どもたちの健康と安全に関わる課題に直面しており、若年世代からの性教育の充実が社会全体で真剣に取り組むべき重要な課題でございます。

こうした中、本市では市の総合計画に「早い時期からの性に関する正しい知識の普及啓発のため、就学前からの包括的性教育に取り組む」ことを明記し、市内の教育・保育施設や地域子育て支援センターにおいて、幼児期の発達段階に応じた包括的性教育に関する講話を実施しております。

さらに、本市の教育委員会では、教育ビジョンに「児童生徒が、性に関する正しい知識を理解するため、包括的性教育の視点も含めた生命（いのち）を守る教育の充実を図る」ことを明記し、令和8年3月に『宮崎市立小中学校における包括的性教育の手引』を策定いたしました。これは、児童生徒が、ユネスコの提唱する国際セクシュアリティ教育ガイダンスを踏まえ、生命尊重、人格尊重、ジェンダー平等の精神に基づき、自ら考え、判断し、意思決定をする能力を身につけ、プレコンセプションケアに繋げようとするものです。

現在、この手引をもとにした授業を市内モデル校において実施しており、令和9年度より市立小中学校全校72校で展開することとしております。これは、小学校6年間で6教科22時間、中学校3年間で6教科17時間分の「包括的性教育の手引」に基づく授業を、学校の教員が実施するもので、並行して教員の研修にも取り組んでいるところです。

こうした取組を始めたタイミングで、全国の医療・教育・行政の関係者が一堂に会し、包括的性教育の普及と実践に向けて有意義な議論が交わされることは、大変時宜を得たものであり、意義深いものであると確信しております。

本大会での貴重な知見や成果が、全国の性教育の更なる充実と、子どもたちが自分らしく尊厳をもって生きられる地域社会の実現へつながることを大いに期待しております。

また、ご参加の皆様におかれましては、大会での交流に加え、美味しさ日本一の宮崎牛や地鶏など美味しい食べ物や花と緑にあふれた風景など宮崎の魅力を存分にご堪能いただき、大会の良い思い出にいただければ幸いです。

結びに、本大会のご成功と、日本産婦人科医会の今後ますますのご発展、ならびにご参加の皆様のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



## 祝 辞

公益社団法人宮崎県医師会 会長 河野 雅行

第48回日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会が開催されますことを、宮崎県医師会を代表して心からお祝い申し上げます。また、日本産婦人科医会の石渡会長、宮崎県産婦人科医会の川越会長をはじめ、この大会の準備のために力を尽くしてくださった関係者の皆様に、深く感謝いたします。

半世紀近く日本の性教育を引っ張ってきたこのセミナーは、次世代を担う子どもたちの健全育成に多大な貢献を果たされてこられました。いま、SNSなどにあふれる根拠のない情報に振り回されている若者たちを守るためにも、「包括的性教育」を広めていくことは、まさに今すぐ取り組まなければならない大切な課題です。

本県は、長年にわたり人工妊娠中絶率が全国平均を大きく上回るという非常に厳しい現実と直面しております。

その一方で宮崎県産婦人科医会を中心とした活動のおかげで、2024年度のHPVワクチン定期接種率は全国トップになりました。この活動を通してできた、行政や教育現場との強い連携体制は、宮崎が誇るべき大きな財産です。

このように、厳しい課題と素晴らしい成果の両方が存在する宮崎だからこそ、これからの子どもたちのための性教育について、力強くメッセージを発信していく必要があると考えています。まさに今回のテーマである『今こそ学ぼう包括的性教育～宮崎からのメッセージ～』には、そのような熱い思いが込められていると感じています。

性教育とは、子どもたちが自分も周りの人も大切に、自分の人生や健康を自分自身で守っていく「生きる力」を育てる教育です。このセミナーが皆様のつながりを深め、子どもたちの未来を明るく照らすきっかけになることを願っています。

最後になりますが、本大会の成功と、皆様がこれからも健康でご活躍されることを心からお祈り申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

## 第48回日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会 大会概要

大会名：第48回日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会

メインテーマ：今こそ学ぼう包括的性教育～宮崎からのメッセージ～

大会長：川越 靖之（宮崎県産婦人科医会 会長）

現地開催：2026年8月2日（日）8：30～15：30

会場：宮崎観光ホテル 3F 光耀

〒880-8512 宮崎県宮崎市松山 1-1-1 TEL. 0985-27-1212

オンデマンド配信：2026年8月13日（木）9：00～8月31日（月）18：00

うち、日本専門医機構単位付与対象期間：2026年8月13日（木）9：00～8月20日（木）9：00

懇親会：2026年8月1日（土）18：00～20：00

会場：宮崎観光ホテル 2F 紅日向

〒880-8512 宮崎県宮崎市松山 1-1-1 TEL. 0985-27-1212

ホームページ：<https://seisemi48.umin.jp/>



### 参加費・参加登録

#### 参加登録・オンライン決済

大会への参加登録ならびに参加費のオンライン決済がご利用いただけます。

※お支払いの確認をもって、参加登録完了となります。

※お支払い完了後の返金はありませんので、予めご了承ください。

#### 参加登録期間

##### ●現地参加

2026年5月20日（水）12：00～8月2日（日）15：20

※参加される前に、必ず参加登録（参加費お支払い）を完了してください。

「現地参加」で申し込んだ場合でも、後日オンデマンド配信視聴（Web参加）が可能です。

##### ●後日オンデマンド配信視聴（Web参加）

2026年5月20日（水）12：00～8月31日（月）15：00

※コンビニ決済：8月24日（月）24：00まで

日本専門医機構単位付与を希望される方

8月20日（木）8：00まで

### 参加費

|       |                                                                                                    |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 医師    | 12,000 円（課税／消費税 10% 込）                                                                             |
| 医師以外  | 3,000 円（課税／消費税 10% 込）<br>引率教師の方は、こちらからの参加登録は不要です。当日会場の総合案内窓口にお声がけください。窓口にて受付いたします。                 |
| 学生・生徒 | 無料（要証明書）<br>学生・生徒の方は、登録時に学生証の添付（pdf、jpeg など）が必要となります。ご準備のうえ参加登録を開始してください。現地参加の方は、学生証を会場へ必ずご持参ください。 |

※当会は、適格請求書発行事業者ではございません。

## 懇親会（先着制）

※当日のお申込み、参加費お支払いはお受けできませんので、必ずオンライン参加登録時に登録・決済をしてください。

日 時：8月1日（土）18：00～20：00

会 場：宮崎観光ホテル 2F 紅日向

参 加 費：15,000 円（課税／消費税 10% 込）

申込期間：7月13日（月）23：59 まで

## 決済方法

### ●クレジットカード決済

利用可能なクレジットカードの種類



お支払いのカード明細には、大会名でなく、次の店舗名が掲載されます。

大会名：第 48 回日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会

店舗名：学術集会参加費

### ●コンビニ決済（現金支払い）

お支払い期限は、お申込み日の翌日から3日間となります。期日を過ぎますと自動でキャンセルとなりますので、再度ご登録をお願いします。



## 単位について

下記単位が取得できます。

日本産婦人科医会研修参加証、および日本産科婦人科学会専門医単位は、日本産科婦人科学会の研修管理システムを利用し登録いたします。

### ●現地参加の方

参加章に印字された二次元コードで登録をおこないます。

日本専門医機構の認定講習は、各講習会場で対象セッション開始前に受付をいたします。開始時間 10 分を過ぎた場合、聴講は可能ですが、日本専門医機構単位は付与されませんのでご了承ください。また、原則途中退出は認められません。

### ●Web 参加（オンデマンド配信視聴）の方

日本専門医機構単位付与対象期間：2026 年 8 月 13 日（木）9：00～8 月 20 日（木）9：00

最後まで動画を視聴すると、単位登録用の URL が表示されます。取得をご希望の方は必要事項を登録してください。

※各講習および参加単位（下記参照）については、単位付与対象期間内の視聴だけが対象です。いかなる理由があっても単位付与対象期間以降は対象となりません。

※視聴後の登録忘れ等も、後日付与はできません。ご自身で必ず登録いただきますよう、お願いいたします。

日本産科婦人科学会学術集会参加 2 単位・日本産婦人科医会研修会参加 1 単位

| 開催名称                        | 現地参加 | オンデマンド<br>配信視聴 |
|-----------------------------|------|----------------|
| 第 48 回日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会 | ○    | ○              |

日本専門医機構「産婦人科領域講習」単位

| 講座名                                             | 現地参加 | オンデマンド<br>配信視聴 |
|-------------------------------------------------|------|----------------|
| 基調講演「我が国での包括的性教育の実践に向けて」                        | ○    | ○              |
| 教育講演Ⅰ「思春期の心と性行動～<br>非行臨床から見える子ども達の迷える性の現状」      | ○    | ○              |
| 教育講演Ⅱ「性的同意は世界を救う<br>－加害者臨床と包括的性教育の実践より」         | ○    | ○              |
| ランチョンセミナー「HPV を防いで、未来を守る<br>－ワクチンと性教育でつなぐ命のバトン」 | ○    | －              |
| パネルディスカッション「みんなで考えよう包括的性教育」<br>～宮崎からのメッセージ～     | ○    | ○              |

日本助産評価機構 CLoCMiP レベルⅢ 認証申請

アドバンス助産師 更新申請・再認申請要件「選択研修」

選択研修の修了証は、現地参加された方には、会場出口にて配布いたします。オンデマンド配信の場合は、最後まで視聴されると修了証をダウンロードいただけます。ご自身でアドバンス助産師プラットフォームから登録をお願いいたします。

| 講座名                                             | 現地参加 | オンデマンド<br>配信視聴 |
|-------------------------------------------------|------|----------------|
| 基調講演「我が国での包括的性教育の実践に向けて」                        | ○    | ○              |
| 教育講演Ⅰ「思春期の心と性行動<br>～非行臨床から見える子ども達の迷える性の現状」      | ○    | ○              |
| 教育講演Ⅱ「性的同意は世界を救う<br>－加害者臨床と包括的性教育の実践より」         | ○    | ○              |
| ランチョンセミナー「HPV を防いで、未来を守る<br>－ワクチンと性教育でつなぐ命のバトン」 | ○    | －              |
| パネルディスカッション「みんなで考えよう包括的性教育」<br>～宮崎からのメッセージ～     | ○    | ○              |

日本産婦人科医会の会員の皆様へ

日本産婦人科医会の会員は、オンライン参加登録フォームで会員番号（8 桁）を入力いただきます。

- ・単位登録のため、会員番号は間違いのないようご入力ください。
- ・入力内容に不備があった場合、研修単位登録は受理されませんので予めご了承ください。
- ・会員番号が不明な方は、日本産婦人科医会事務局まで直接お問合せください。
- ・オンデマンド配信参加の場合は、視聴履歴が確認できたら研修管理システムに登録いたします。

日本産科婦人科学会の会員の皆様へ

日本産科婦人科学会の会員は、オンライン参加登録フォームで会員番号（8 桁）を入力いただきます。

- ・単位登録のため、会員番号は間違いのないようご入力ください。
- ・入力内容に不備があった場合、単位登録は受理されませんので予めご了承ください。
- ・会員番号が不明な方は、日本産科婦人科学会事務局まで直接お問合せください。

## 関連行事

### 「県民公開講座」

共催：宮崎県産婦人科医会、一般社団法人日本家族計画協会 避妊教育ネットワーク

会期：2026 年 8 月 1 日（土）14:20-16:45

会場：宮崎観光ホテル 3F 光耀 〒880-8512 宮崎県宮崎市松山 1-1-1 TEL. 0985-27-1212

メインテーマ：みんなで考えよう～包括的性教育～

自分を守り、相手を大切にする新常識。包括的性教育と一緒に学びましょう！！

14：20～15：20

教育講演

男性も女性も「自分ごと」として考える性教育

座長：上山貴子（宮崎県産婦人科医会 常任理事／うえやま貴子クリニック 院長）

演者：前川直哉（福島大学 教育推進機構 准教授）

15：30～16：45

パネルディスカッション

みんなで考えよう～包括的性教育～

司会：高村一紘（宮崎県産婦人科医会 性教育指導セミナー全国大会 実行委員会委員／  
宮崎県立宮崎病院 産婦人科兼地域医療科 医長）

講師：長沼康子（長沼レディースクリニック 院長）

前川直哉（福島大学 教育推進機構 准教授）

黒田奈々（宮崎市議会議員）

清水鈴代（宮崎大学清花アテナ DEI 推進室 副室長）

税田倫子（株式会社グローバル・クリーン 専務取締役）

# アクセスガイド

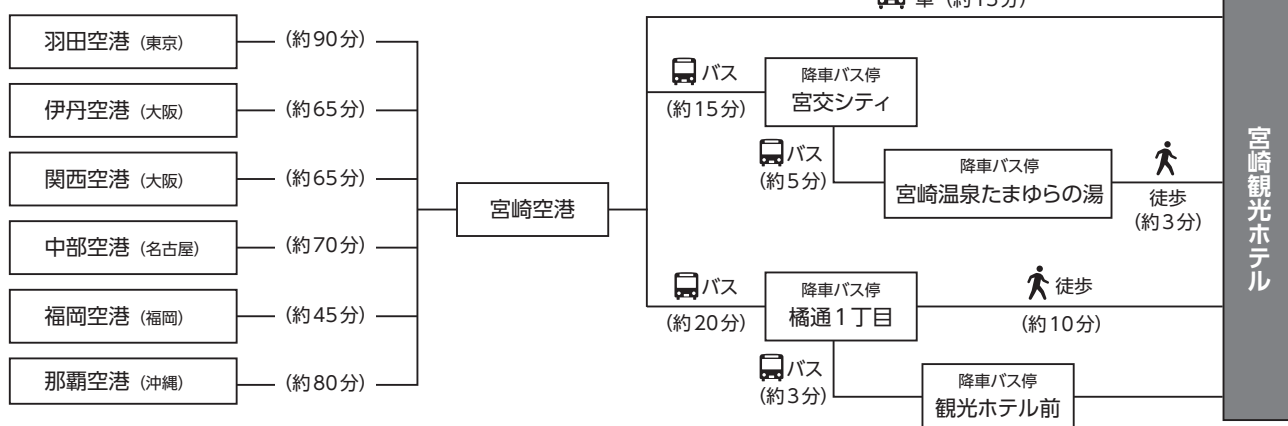
## 宮崎観光ホテル

住所：〒880-8512 宮崎県宮崎市松山1-1-1

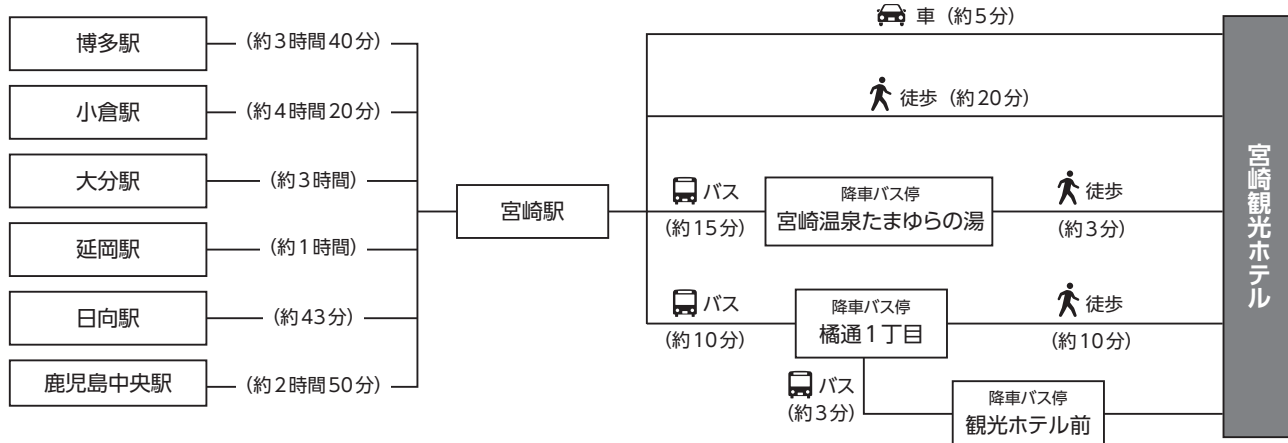
代表電話番号：0985-27-1212



## ✈ 飛行機でお越しの場合



## 🚆 電車でお越しの場合 (九州新幹線経由)

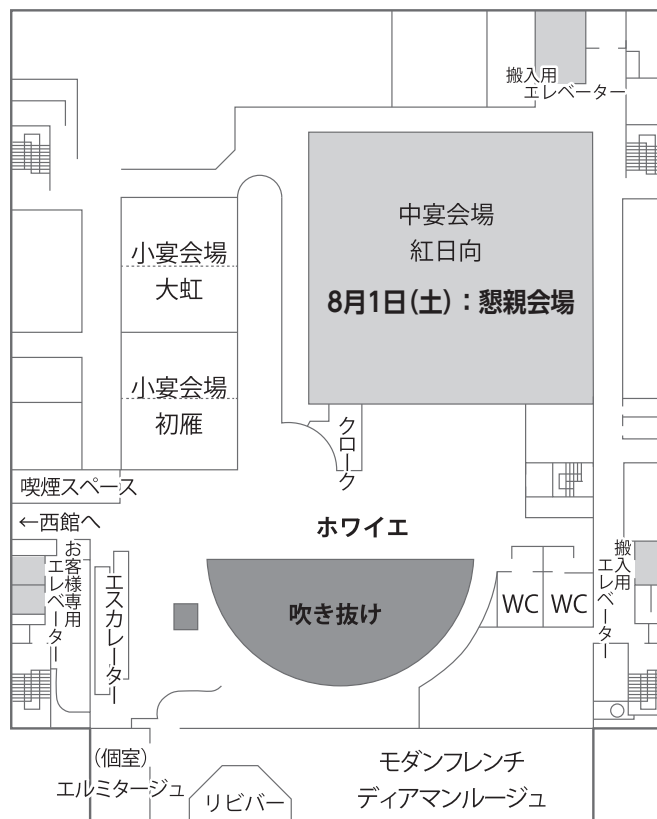


# 会場案内

## EAST WING 3 F / 東館3F



## EAST WING 2 F / 東館2F



# プログラム

8月2日(日)

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8:30～ 8:50  | 開 会 式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 8:50～ 9:50  | <p>基 調 講 演</p> <p>座長：日本産婦人科医会 副会長／<br/>総合母子保健センター愛育病院 名誉院長 安達 知子</p> <p>「我が国での包括的性教育の実践に向けて」</p> <p>演者：富山県議会議員／<br/>女性クリニック We! TOYAMA 代表 種部 恭子</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 9:50～10:50  | <p>教 育 講 演 I</p> <p>座長：宮崎県産婦人科医会 会長／<br/>宮崎県立看護大学 専門基礎分野 教授 川越 靖之</p> <p>「思春期の心と性行動<br/>～非行臨床から見える子ども達の迷える性の現状」</p> <p>演者：京都少年鑑別所 医務課 医務課長 定本 ゆきこ</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 11:00～12:00 | <p>教 育 講 演 II</p> <p>座長：日本産婦人科医会 女性保健委員会 委員長 野口 まゆみ</p> <p>「性的同意は世界を救うー加害者臨床と包括的性教育の実践より」</p> <p>演者：西川口榎本クリニック 副院長 斉藤 章佳</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 12:20～13:20 | <p>ランチョンセミナー<br/>(MSD 株式会社共催)</p> <p>座長：宮崎県産婦人科医会 会長／<br/>宮崎県立看護大学 専門基礎分野 教授 川越 靖之</p> <p>「HPVを防いで、未来を守る<br/>ーワクチンと性教育でつなぐ命のバトン」</p> <p>「14歳までに伝えたい ～ HPVワクチンと包括的性教育」</p> <p>演者：埼玉医科大学 高橋 幸子</p> <p>「HPV 関連疾患の Elimination に向けて<br/>～宮崎県における疾患啓発の取組み～」</p> <p>演者：宮崎県産婦人科医会 会長／<br/>宮崎県立看護大学 専門基礎分野 教授 川越 靖之</p>                                                                                                                                  |
| 13:40～15:20 | <p>パネルディスカッション</p> <p>座長：一般社団法人日本家族計画協会 会長 北村 邦夫<br/>座長：宮崎県産婦人科医会 性教育指導セミナー全国大会 実行委員会<br/>委員／宮崎県立宮崎病院 産婦人科 医長 高村 一紘</p> <p>「みんなで考えよう包括的性教育」～宮崎からのメッセージ～</p> <p>「教育現場での包括的性教育の実践に向けて<br/>～ 30 年間の“産婦人科校医”の経験から考えてみる～」</p> <p>演者：有限責任事業組合（LLP）あおり女性ヘルスケア研究所<br/>所長 蓮尾 豊</p> <p>「ユースクリニックから考える性と生殖の健康と権利」</p> <p>演者：藤沢女性のクリニックもんま 院長 門間 美佳</p> <p>「診療の場から訴えたい性教育「性別不合の子・性暴力の<br/>被害者・育てられない出産をする女性」を診る立場から」</p> <p>演者：医療法人河野産婦人科クリニック 院長 河野 美代子</p> |
| 15:20～15:30 | 閉 会 式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

# 基 調 講 演



高千穂峽



## 我が国での包括的性教育の実践に向けて

富山県議会議員／  
女性クリニック We! TOYAMA 代表 種部 恭子

### <略 歴>

#### ■学歴

1990年 富山医科薬科大学医学部卒業  
1998年 富山医科薬科大学大学院医学研究科修了

#### ■職歴

1990年 富山医科薬科大学医学部附属病院医員  
1998年 富山医科薬科大学医学部産科婦人科学助手  
2003年 富山県済生会富山病院産婦人科医長  
2006年 女性クリニック We! TOYAMA 院長  
2019年～ 同 代表

#### ■公職等

富山県議会議員、内閣府 女性に対する暴力に関する専門調査会委員、公益社団法人日本産婦人科医会常務理事、公益社団法人富山県医師会理事、富山県産婦人科医会会長、公益社団法人日本産科婦人科学会 SRHR 推進委員会委員

#### ■専門医等

日本専門医機構認定産婦人科専門医、日本 GI 学会認定医、日本性感染症学会認定医、富山県警察女性被害者支援ネットワーク医師、性暴力被害ワンストップ支援センターとやま委嘱医

「寝た子を起こすな」「不純異性交遊」等の文脈で、道徳的に正しい選択として禁欲を強調する精神主義的禁欲教育は、既に性交を経験した者の相談や医療へのアクセスを遅らせ、結果的に、若年妊娠や性感染症は増加する。日本でも、多くの若者がネガティブな、権力と結びついた、混乱を引き起こす性的な情報に曝され、健康の達成に必要な情報を手にしないまま暴力や搾取に巻き込まれている。

包括的性教育は、人権とジェンダー平等に基づき、性と生殖に関する健康を達成することを目的とするものであり、セクシュアリティの肯定がその前提である。

ユネスコは、性感染症予防と避妊行動の増加等の効果にエビデンスがある教育の枠組み、International technical guidance on sexuality education を作成した。国や地域の文化や宗教に合った形で、発達段階に合わせて継続的に積み上げる教育を実装するための指針である。

日本では性教育元年といわれた 1992 年、保健体育科だけでなく国語、社会、理科などあらゆる教科で、いのち、性、家族、心地よい関係、健康などを多様な切り口で取り扱う、ユネスコの指針に近い教育が、小・中学校の教師によって系統的に行われていた。しかし 2000 年頃から、精神主義的禁欲教育に親和性がある信条を持つ団体や政治家を核にしたバックラッシュが始まり、日本のジェンダー政策と性教育は後退した。

では、現状において包括的性教育を再度実装することは不可能なのか。

学習指導要領に示す「性に関する指導」には、いわゆる歯止め規定がある。これが性教育後退の一因であることは否めない。しかし、法や地方教育行政の仕組みは、1992 年当時と何も変わっていない。

日本の義務教育は、教育基本法に基づき国と地方公共団体がその実施と水準の確保に責任を持つ。学校教育法および同施行規則で定める学習指導要領にはその最低限の内容が示されており、特に必要があると学校が判断した場合、その内容を超えて指導することができる。その場合、「目標や内容の趣旨を逸脱したり、生徒の負担過重となったりすることのないようにしなければならない」と定めている。これは性に関する指導に限ったことではない。

一方で、性に関する指導のみ、「学校全体で共通理解を図り」「発達段階に合わせ」「保護者の理解を得て」実施することが求められている。逆に言えば、この 3 点をクリアすれば、内容の裁量権は学校にある。そして生徒にとって過重で逸脱した教育かどうかを判断するのは市町村であり、不適切な指導を行った学校や教員に処罰を行う権限を持つのは、都道府県である。

歯止め規定は、健康で幸福な人生のために必要な教育を行わないまま、若者を危険な状態に放置することの言い訳にはならない。そしてその責任は、地方自治体にある。

萎縮した現状を変化させるために必要なのは、歯止め規定を無くすことではなく、今以上に学校と教員の裁量権を最大限に発揮できるよう、アカデミアと地方自治が背中を支えることではないか。

# 教育講演 I



日南海岸



## 思春期の心と性行動 ～非行臨床から見える子ども達の迷える性の現状

京都少年鑑別所 医務課 医務課長 定本 ゆきこ

---

### <略 歴>

#### ■学歴

1985年 奈良県立医科大学卒業

#### ■職歴

1988年 京都大学医学部附属病院非常勤医

1991年 京都少年鑑別所

#### ■所属学会

日本精神神経学会

日本児童青年精神医学会 評議員

日本司法精神医学会 代議員

日本犯罪心理学会 理事

#### ■専門医等

日本精神神経学会 精神科専門医

日本児童青年精神医学会 児童精神科専門医

こどもの心専門医

筆者は日々十代の少年達に接して仕事をしているが、近年性に迷い性に傷ついている思春期の事例を多く見かける。女子は、多くの事例で性の被害的な経験によって傷つき後遺症を引きずり、精神保健上の問題や行動上の問題を引き起こしている。男子においては、高まる性的欲求を間違ったやり方で行動化し、自覚のないままに性加害行動に及んでいる事例が後を絶たない。

思春期は、性ホルモンの分泌によって体が性的に変化を遂げてゆくのと軌を一にして、心にも変化が進む。まず、興味関心を向ける対象の中心が、外の物から自分に移る。自分とはどのようなものなのか、自分は他人からどう思われているのか等といったことで頭の中が占められているため、他者からの評価を気にする余り他人からの視線や言葉かけに敏感になる。ささいな対人刺激によって躁から鬱に、自我肥大から自己卑下にというように両極端に揺れ動く。また、自己像や進路、対人関係等に常に不安を抱えており、ささいなことで不安が高まる。

このような心の特徴を有する思春期に、子ども達は非常に依存的になる。自分を丸ごと受け入れてくれる二者関係を強く求めるのである。一方で、中枢神経の目覚ましい発達により、思考力、判断力が大人並みにつき自己主張ができてくるため、大人の言うことを聞かなくなり、反発するようになる。要するに、依存と反発の両方を大人に対して向けるのである。依存し愛着を求めながら反発し反抗する子ども達は、大人にとっては分かりにくく扱いにくい存在である、しかしながら、依存と反発の両方をしっかり受け止めてもらうことで子ども達は次第に自分というものを見つけ、自己同一性を形成してゆく。これが子どもが大人になってゆく心のプロセスである。

通常、依存と反発を親や家庭に向けるのであるが、何某かの理由でそれを受け止められない親や家庭がある。親に変わる大人によって受け止めてもらえればよいがそれも叶わない時、子ども達は何らかの行動化、あるいは症状形成に至ることがある。

女子は依存が前面に出る。依存が家庭や母親に受け止められない時、依存対象を求めて外にさ迷い出ることから性の被害に遭う。自ら危険に向かい性的搾取に遭っているのに、それに気づかずさらに傷つく。男子は反発が前面に出る。性衝動に関わる激しいエネルギーによって反発を爆発させるかのように行動化を示す。その行動化が、一定の少年達にとっては性加害行動となる。

子ども達を性被害から守り、また性加害に及ぶことをも防ぐために、思春期の心と性行動の特徴を理解することが求められる。女子にも男子にも、包括的性教育が必要であることは言うまでもない。

非行臨床の現場に現れる青少年たちは決して特別な存在ではなく、多くの一般の青少年少女たちを反映している存在である。当日は、事例を挙げながら、現代の青少年の置かれた性の現状と課題について考えたい。

# 教育講演Ⅱ



都井岬



## 性的同意は世界を救う ー加害者臨床と包括的性教育の実践より

西川口榎本クリニック 副院長 斉藤 章佳

### <略 歴>

1979年滋賀県生まれ。大卒後、我が国最大規模といわれる依存症施設である榎本クリニックにソーシャルワーカーとして、25年にわたりアルコール依存症を中心に様々なアディクション臨床に横断的に携わる。その後、2024年10月から現職。

専門は加害者臨床で現在まで3500名以上の性犯罪加害者の治療に関わり、その家族支援も含めた包括的な地域トリートメントに関する実践・研究・啓発活動に取り組んでいる。小中学校では薬物乱用防止教育をはじめ、大学でも早期の依存症教育に積極的に関わっており、全国での講演も含めその活動は幅広くマスコミでも度々取り上げられている。

東京都痴漢被害実態把握調査委員、一般社団法人痴漢抑止活動センターアドバイザー、一般社団法人関東交通犯罪遺族の会あいの会顧問、日本「性とところ」関連問題学会副理事長、(株)STARTO ENTERTAINMENT モニタリング外部有識者など。

代表的な著書に『男が痴漢になる理由』（イーストプレス）、『小児性愛という病ーそれは、愛ではない』（ブックマン社）、『盗撮がやめられない男たち』（扶桑社）、『子どもへの性加害ー性的グルーミングとは何か』（幻冬舎新書）など多数。

『先生、僕たちの性の教科書は AV でした。今からしっかりした性教育を受けたいです』

これは榎本クリニックで 2006 年から行っている性被害者の治療教育プログラムに長年参加している当事者からの切実な訴えだった。このプログラムには、痴漢、盗撮、露出、子どもへの性加害、グルーミング、レイプ、下着窃盗、デジタル性暴力など多種多様な性加害の課題を持った当事者が「今日一日」性を使った暴力を使わない生き方を身につけるために通院をしている。

ある事例を紹介したい。

女子学生の制服を精液で汚すことをやめられない A 氏は、初診時にこんなエピソードを話してくれた。「私は中学生のときに生まれてはじめて見た AV で、嫌がる女子生徒のセーラー服のスカートに射精をするシーンに激しく衝撃を受けました。当時の体験は今でも鮮明に記憶していますが、まるで「脳内を電撃が走った」かのようなすさまじい衝撃でした。しかも、その映像ではスカートを汚された女子生徒は最後は満面の笑みを浮かべ、喜んでいました。そのとき私は「スカートに射精されて喜ぶ女もいるんだ」という大発見をしました。私は、あの映像と出会わなかったら、こういう性嗜好は芽生えていなかったかもしれません。私は、その後同様の行為を高校生からやるようになり、20 歳の時はじめて逮捕され、その後もやめることができず複数回刑務所に行っています。」

A 氏は、最後に受刑した刑務所で信頼していた教育専門官から、出所したら専門のクリニックに受診したほうが良いと強くすすめられびっくりしたそうだ。これは性的な嗜癖行動、つまりアディクションの問題だったんだとその時初めて知ったからだ。

このようなエピソードは加害者臨床の現場では枚挙にいとまがない。私はおぼろげながら「加害者臨床」と「包括的性教育」というふたつの領域がコラボできるような取り組みができないだろうか考えるようになった。

そんなある日、朝日新聞でこんな記事が目にとまった。

2022.1.11 朝日新聞「失敗だらけの人生だから…」経験交え、学校で「性」を語る助産師 <https://www.asahi.com/sp/articles/ASQ1B4WMHPDNUTIL02R.html>

私は直感的に「この人しかいない。」と思った。

その名は助産師の櫻井裕子さん（通称おかみ）。確か以前どこかのセミナーでご挨拶して SNS でつながっていたはず。私はすぐにメッセージを送った。

『大事な話があるのでクリニックに来てください。』

かなり唐突だったと思うし、ご本人はいったい何の話があるんだろうと思われたに違いない。だいたい私は何か新しいことを始めるときはいつもこんな感じだ。

「加害者臨床で包括的性教育をやりたいです。なので、力をかしてください。そして、このプログラム名は『性的同意は世界を救う』プロジェクトにしましょう。」

引き受けてくれることが前提のご依頼に相手は呆気にとられながら『Yes』と言ってくれた。

そして、振り返ること 2022 年 9 月 17 日（金）に、おそらく日本初であろう性加害者臨床における包括的性教育の取り組み「性的同意は世界を救う」プロジェクトは産声をあげた。

本講演では、そんな未知なる実践を始めて 5 年目を迎えようとしている現在、どんな景色が目の前に広がってきたかを皆さんと共有出来たらと考えている。

# ランチョンセミナー



青島・鬼の洗濯板

## 14 歳までに伝えたい ～ HPV ワクチンと包括的性教育

埼玉医科大学 高橋 幸子

### <略 歴>

山形大学医学部医学科卒業

### ■現職

埼玉医科大学 医療人育成支援センター・地域医学推進センター 助教

埼玉医科大学病院 産婦人科 助教 〈思春期外来担当〉

埼玉医科大学 医学教育センター

### ■非常勤

松田母子クリニック 非常勤医師

産婦人科専門医

日本思春期学会 理事

一般社団法人 彩の国思春期研究会 代表理事

### ■著書

○マンガでわかる！ 28 歳からのオトメのからだ大全 KADOKAWA

○12 歳までに知っておきたい 男の子のためのおうちでできる性教育（2024 年 3 月 14 日発売）

○生理ってなあに？（2024 年 5 月 10 日発売）

○中高生のための新しい性教育ワークブック（2024 年 7 月 24 日発売）

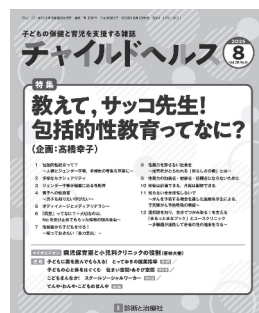
○わたしはみつけた！ バージニア・アップガー博士の赤ちゃんの命をすくう発明（こどもの未来社）  
（2024 年 12 月）

○女子中高生が教える男子にも知ってほしい生理の話（Gakken）（2025 年 2 月 11 日発売）

○わたしの体におこること なんでもガールズトーク！ 偕成社（2025 年 7 月 /22 日発売）監修

○チャイルドヘルス 2025 年 08 月号 [雑誌] 特集「教えて、サッコ先生！ 包括的性教育ってなに？」  
（2025 年 8 月 1 日発売）企画

○10 歳までに知っておきたい  
まんがでわかる！ 子ども防犯  
性教育 KADOKAWA  
（2025 年 10 月 22 日発売）



## HPV 関連疾患の Elimination に向けて ～宮崎県における疾患啓発の取組み～

宮崎県産婦人科医会 会長／  
宮崎県立看護大学 専門基礎分野 教授 川越 靖之

### <略 歴>

#### ■履歴書

平成4年 高知医科大学医学部卒業  
平成10年 カナダ西オンタリオ大学産婦人科留学  
平成13年 宮崎医科大学医学部産婦人科学講座 助教  
平成18年 宮崎大学医学部生殖発達医学講座産婦人科学分野 講師  
平成27年 宮崎大学医学部発達泌尿生殖医学講座産婦人科学分野 准教授  
平成28年 宮崎大学医学部附属病院産婦人科 診療科長  
平成29年 宮崎大学医学部附属病院産婦人科 病院教授  
令和4年 宮崎県立看護大学 専門基礎分野 教授

#### ■役職

宮崎県産婦人科医会 会長  
宮崎市郡産婦人科医会 副会長  
宮崎県産婦人科学会 副会長  
日本産婦人科医会 会員倫理委員会委員  
宮崎大学医学部産婦人科 臨床教授  
宮崎県医師会 母体保護指定医師審査委員会委員長  
宮崎県医師会 地域医療委員  
宮崎県生活習慣病検診指導協議会委員（子宮がん部会）  
新生児マススクリーニング検査専門委員

#### ■所属学会

日本医師会、日本産科婦人科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本周産期・新生児医学会、  
日本女性医学学会、日本婦人科病理学会

#### ■資格

日本産科婦人科学会 専門医、日本婦人科腫瘍学会 専門医、日本がん治療認定医

#### ■賞罰

1998.3 President's Presenter's Award, Society for Gynecologic Investigation (SGI).  
(Atlanta, Georgia, USA. March 11-14, 1998.)  
2021.2 第34回 宮崎県医師会医学賞

# パネルディスカッション



鵜戸神宮



## 教育現場での包括的性教育の実践に向けて ～ 30 年間の“産婦人科校医”の経験から考えてみる～

有限責任事業組合（LLP）あおもり女性ヘルスケア研究所  
所長 蓮尾 豊

### <略 歴>

#### ■学歴・職歴

昭和49年 弘前大学医学部卒業。弘前大学医学部産科婦人科学教室入局  
平成4年 弘前大学医学部産婦人科講師  
大学以外では、国立弘前病院、むつ総合病院などで産婦人科医長として勤務  
平成7年 「弘前レディースクリニックはすお」開業  
平成20年 「医療法人弘前レディースクリニックはすお」譲渡、退職  
平成26年 「有限責任事業組合（LLP）あおもり女性ヘルスケア研究所」設立

#### ■所属学会

日本産科婦人科学会 日本産婦人科医会（特別会員） 日本性感染症学会  
日本思春期学会（功労会員） 日本女性医学学会 日本性科学会 日本母性衛生学会  
日本エンドメトリオーシス学会

#### ■性教育関係

日本思春期学会認定性教育講師 青森県教育委員会産婦人科校医  
八戸市いのちを育む教育アドバイザー 階上町いのちを育む教育アドバイザー  
性教協あおもりサークル代表 あおもり思春期研究会元会長（現在：世話人）

1995年に婦人科クリニックを開業したが、この年に青森県教育委員会から「産婦人科校医」を委嘱され性教育に携わることとなった。開業まで大学病院や地域の基幹病院に勤務していたため思春期診療の機会は少なく、教育現場における性教育の必要性を十分に認識していなかった。開業後数年を経過すると10代女性の受診が急増し、1日に10～40名が来院し、毎日が思春期外来という状況になった。避妊、月経、性感染症、対人関係など多様な相談に直面し、勤務医時代には知り得なかった思春期のリアルに触れ、基本的知識を早期に伝える必要性を痛感し、積極的に学校へ出向くようになった。青森県の産婦人科校医制度は県立高校が対象であるが、義務教育での性教育はさらに重要と考え、中学校での実践も広げていった。

当初は予期せぬ妊娠や性感染症の予防を主目的としたリスク回避型で、医学的知識の伝達が中心であった。しかし国際セクシュアリティ教育ガイダンス改訂版（以下ガイダンス）や包括的性教育の理念に触れ、性教育の目的はリスク低減にとどまらず、自己理解、他者尊重、意思決定能力の育成、人権・ジェンダー平等の理解などにも広がった。

包括的性教育は性を「問題」や「危険」としてのみ扱わず、人生の一部として肯定的に捉え、心身の健康と尊厳、権利を守るためのライフスキル教育である。医療職としての専門性を生かしつつ、養護教諭、担任、学教長、都道府県や市町村の教育委員会、保護者などとの多職種協働が不可欠であることを実感してきた。また、同じ医療職である看護師、助産師との連携も重要である。講演後のアンケートや相談からは、「自分を大切にしていよと初めて思えた」「親や先生には聞けなかった」といった声も多く、安心できる学びの場の重要性を再認識している。一方、日本では性教育に対する社会的抵抗感、歯止め規定、指導者の経験差、時間的制約、保護者理解の不足など、実践上の課題も依然として大きい。

ガイダンスは1. 人間関係、2. 価値観・人権・文化・セクシュアリティ、3. ジェンダーの理解、4. 暴力と安全確保、5. 健康とウェルビーイングのためのスキル、6. 人間のからだと発達、7. セクシュアリティと性的行動、8. 性と生殖に関する健康の8キーコンセプトで構成される。4つの年齢区分に基づき、幼少期から継続的に螺旋階段のように学びを積み上げる点が特徴であり、学校保健と地域医療が連動する仕組みが求められる。

本講演では、30年間にわたる「産婦人科校医」の経験から性教育観の変遷、包括的性教育導入の意義、地域連携の必要性などについて報告する。また、思春期の若者が自らの身体と心を尊重し、他者と健全な関係を築き、主体的に将来を選択できるよう支援するため、今後の包括的性教育の実践に求められる視点を考察したい。



## ユースクリニックから考える性と生殖の健康と権利

藤沢女性のクリニックもんま 院長 門間 美佳

---

### <略 歴>

#### ■学歴

山梨大学医学部卒業

#### ■職歴

旭中央病院、湘南鎌倉総合病院、女性医療クリニック LUNA などを経て令和1年藤沢女性のクリニックもんまを開設。

#### ■所属学会

日本産科婦人科学会、日本思春期学会、日本東洋医学会、日本女性医学学会

#### ■専門医など

日本産科婦人科学会専門医、日本思春期学会理事

日本では、避妊や中絶、新生児遺棄の問題は女性個人の責任に矮小化されがちだが、社会システムとして『性と生殖の健康と権利が守られていない』という事がこの問題の根源である。

女性の『性と生殖の健康と権利』（以下 SRHR、Sexual and Reproductive Health and Rights）は他の健康と同じ大切な健康で、国が女性の SRHR を守るシステムが必要である。

SRHR、若者の性の健康を守るために、①包括的性教育 ②若者対象の相談・カウンセリング ③性的健康サービス・医療的ケアへのアクセス改善の3つの柱が重要である。

ユースクリニックでは②若者対象の相談・カウンセリングを担う。

ユースクリニックは人権尊重の考えを基盤とし、若者の『性と生殖の健康と権利』SRHR を守り、身体的・精神的なウェルビーイングを促進し、若者が当然享受できるべき支援を簡単に受けられるようにする。若者を尊重し、若者中心で、ユースフレンドリーな対応をすることが、若者がアクセスしやすいユースクリニックのために重要である。

#### 【当院での取り組み～オープンユースクリニック～】

2017 年 2018 年と隣の平塚市で新生児遺棄事件が続き、女子高校生が逮捕された。相談窓口、セーフティネットとしてのユースクリニックが必要と考え、2019 年のクリニック開設当初より助産師・看護師・思春期保健相談士に何でも相談できる『ワンコインユースクリニック』を併設した。

2021 年 6 月、大船駅のルミネでまたも新生児遺棄事件が起きてしまう。もっと多くの若者にユースクリニックを知ってもらいたいと、同年 7 月から月 1,2 回、ネイル、ヘアメイクなど若者が喜びそうな要素も取り入れた『オープンユースクリニック』を開始した。

2024 年 6 月からはピアカウンセラーシステムを開始。ピル、HPV ワクチン、性的同意などについてミニレクチャーを受けた 18 歳以上の学生は、ピアカウンセラーとして活動。当院で学んだ性の知識を自分のフィールド（大学や専門学校）でも広め、地域のヘルスリテラシーの向上に寄与するようエンパワーし、送り出している。

また、近隣の児童養護施設とも情報を共有し、オープンユースにお誘いしている。児童養護施設卒業前にミレーナを挿入し 5 年間の避妊をプレゼントしたり、高校生の妊娠が発覚した際もスムーズな対応が可能であった。オープンユースをきっかけに困難を持つ子どもたちが医療につながりやすくなっている。

オープンユースクリニックを開催している土曜の午後という時間は、リア充の子はバイトや部活が忙しくあまり来ない。居場所がない子、通信制高校に通学している子、DV 被害の子、児童養護施設卒業の子など、期せずしてハイリスクで、脆弱性を持つ若者が集まっているように思う。これからも若者、特にハイリスクで声を上げにくい若者の性の健康を支えるユースクリニックが日本全国に広がるように尽力したい。



## 診療の場から訴えたい性教育「性別不合の子・性暴力の被害者・育てられない出産をする女性」を診る立場から

医療法人河野産婦人科クリニック 院長 河野 美代子

---

### <略 歴>

#### ■学歴

1972年 広島大学卒業

#### ■職歴

1972年 広島大学産科婦人科学教室入局

1981年 あかね会土谷総合病院産婦人科部長

1990年 （医）河野産婦人科クリニック開業

#### ■所属学会

日本産科婦人科学会、日本思春期学会、日本女性医学学会、産婦人科漢方研究会

#### ■専門医

日本産科婦人科学会専門医

私は、日々の日常の診療と共に、「隙間の医療」と私が呼ぶ診療を行っています。

◎性別不合を訴える人（子どもから高齢者まで）

◎性暴力の被害者（性被害ワンストップセンター・警察所・児童相談所から）

◎育てられない子どもを産まざるを得ない人（特別養子縁組のお世話）

これから若者たちや社会に伝えたいこと

1. 早くから性の多様性を伝えることで、LGBTQ 特に性別不合の子どもたちが生きる希望を持てるように。いじめの防止も。特に思春期にはつらさが増しますので、丁寧な対応が必要になります。
2. 避妊も含めた性教育を充実させること。（特に男性にも）そのために歯止め規定を撤廃すること。義務教育での指導が必要です。
3. 妊娠週数の数え方、出産予定日の出し方、いつまで中絶が可能なのかも伝えること。
4. 若者たちに SOS を求めましょうと伝えること。誰か一人でもいい、助けてと言える人を探しましょうと。
5. 人工中絶について、殺人だとの脅しではなく、産んでも育てられない妊娠をした女性の救済策であると伝えること。中絶の後は立ち直りのためにも、繰り返さないように、その後の避妊も含めたケアを。
6. 人工中絶の「男性の同意」を早くなくすこと（法律で）。現実には、婚姻関係でなくとも同意書を必要とする所がほとんどです。
7. 受診や中絶のお金がない人の救済策を行政の責任で行うこと。
8. 産んで一人ででも育てたい人の救済を。（母子支援センター・親子で入れる寮の充実や保育園のある高校など）
8. 特別養子縁組や養護施設・里親の制度等も性教育の中で伝えること。
9. 特別養子縁組で子どもを手放した人へは、その立ち直りのケア（赤ちゃんがかわいがられて幸せに育ててもらっていることを積極的に知ること、段々と傷は癒えていきます）と、再発防止の具体的な指導を。
10. 全国に「妊娠 SOS」など、メールや電話で誰もが相談できる組織を作り、その宣伝を。

2003 年 7 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までに把握された日齢 0 日から 0 ケ月の子どもの虐待死 191 人。内 0 日 165 人。加害者は実母が 89.7%。実母の年齢 19 歳以下 46 例(28.6%)。35 ～ 40 歳以上 35 例(21.8%)の二極化。165 例中 148 例が望まない妊娠。19 歳以下で同居家族が妊娠に気づいていたのは 1 例のみ。20 歳以上では 30 例中 3 例のみ。

出産の一手手前までにどこかに繋がれば、何とかあります。

すべての若者に人権をしっかり見据えてこれらのことも含めた性教育を。若者たちが豊かな人間関係を築きながら豊かな人生を送るためにも。以上